

春

雷

第二号

釜ヶ崎越冬対策特集

<目次>

- 越冬日記 (1)
- テント村の警備から (9)
- 釜ヶ崎労働者から学ぶ (11)
- 友人への手紙 (13)
- 釜ヶ崎越冬斗争に闘わって (15)
- 労働者の社会主義的積極性 (19)
- 越冬斗争に参加して (21)
- 整風運動について (23)
- 石子アールの涙をぬぐって (29)
- 関西新空港紛争の闘いとまきおこそう (31)
- 11・19沖縄統一行動に参加して (34)

大阪地区労働者解放戦線

釜ヶ崎解放委員会

いま、商いを中止して整頓をやり、きれいなお店として
 いろいろもいる。この商いを終えてから整頓をやるという
 いう春もある。我々は、商いをやらざる整風をやることを主
 張する。
 闘争をやりながら整頓することは、やれるだけなく
 非常に素晴らしい効果をおぼらぬのである。

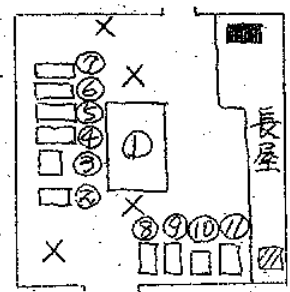
「われわれ魯迅兵団はどこへ行くのか」
 上海体育戦線革命造反指令部の
 魯迅兵団東方紅戦闘隊の大字報より」

越冬日記

(12月30日) 曇り雨

◇9時半から四条ヶ丘公園にテント設置の開始——後日
 はったのも含めると計11コ。

〈テント配置図〉



- ① 大テント・40名・医療
まに病人宿泊用
- ② 炊事用テント
- ③ 材料置場(焚き火用)
- ④ 印刷用テント・日刊紙
刷りえつやく「等の印刷
- ⑤ ⑦ 宿泊用・8名
- ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ 宿泊用・26名(但し
⑨は当初実行せず、後
日⑩へ移り、⑪は夜は
実行せず、テントは無い)

◇7時 ソフトボール大会 雨の中決行する。

◇この日の夕食から、テント材での本格的炊き出しを南
 始する。まだ飯を食べにくる労働者は少なく、とりた
 ての問題は無かった。(パトロール用のにぎりもち食
 事に作る)

◇パトロール 医療センター系で血をみれに合った女性
 を発見(なぐられたらしい)救急車で病院に送る。
 その際、医療センターの宿直員を叩き起して、マイマ
 ンを若干遠及する。

◇警備班 河権カ・自らの巻をまう糸を確認して、海中
 徹夜の警備。

◇炊き火を一ヶ所で始める。 ◇テントで雨もりが有り
 かなりフトンを濡らす。 ◇照明はロウソク、懐中電
 燈を使う。

△12月31日△ 晴天

◇ふとん干しをやる。

◇午後、健康診断、血圧、尿検査、問診等。

◇ホテルの屋根に赤旗ひるがえる。

◇のど自慢大会、三角公園での時半より始める。三百人程度が参加。百人程、歌う。参加者は富足(岸川町)つ下)

翌日付の「日刊」えつとうより
そのうの頃は楽しかったな。テレビどどっかの歌手が歌つとるのをきくんやなくて、俺たちの仲間といっしょに俺たちの大晦日をすごしたんや。みんな歌うまかつたなあ。

エノケンやつたおっさん口へ(笑)ものまねする役者や。炭炭節や釜ヶ崎人情を歌つたおっさんもいたなあ。女の子たちもま子の藤江夜叉子

・岸川町(赤旗の歌など)ニ、三

◇市立中央衛生相談所(四条ヶ辻公園より)キロ程度のとこにある。(にまが田から表門シッターを頼めたことについて、交渉)

実行委側「年末年始オールナイトをやると云つたのに、なぜ表門を閉めるわけなの。」

中東相談「定時営業は終わった。後は表門から相談にきてくれ。」

結果「中東相談が「表門」を閉めて「下へい」といって表門を閉めた。結果、表門に鍵が掛かる。

△1月1日△ 雨、午後晴れる

◇雨のためもちつき大会中止(二日に、二の日の分とあわせて行く)

◇夕方、中央衛生相談所が窓口営業を打ち切ってくる。この日は、前夜ホテルへ泊った人を午前中二回中東相談へ送る。夕方に三回目を送ろうとしたところ、一

きうだったんやぞ。

みんなで百人ほどのときだったんやぞ。三角公園へ行つた俺たちは数百人や、仲間があつたらみんな歌うことができたんやけどな。

最後に何ヶ所の歌を歌われたら声が出んようになったんやぞ。

でも楽しかったなあ、俺の歌をみんなが聞いてくれたし、仲間の歌を俺が聞いたし、杉本隊の兄さんたち60人も見守ってくれたし(茂田や)しかし、歌いだりなかつたなあ。

△歌の内容△流行歌、釜ヶ崎人情、浪曲子(歌ハカ)飛られる)・なにわ節(年祝の人)

・河内音頭(歌に合わせ二、三人が踊り出す)

・聖者の行進(吾等)・民謡(炭炭節、赤太郎節etc)・国歌(二、三人)

方的打切りに合った。

△日刊「えつとう」より△2日発行

俺達に「死ね」と云うのか。

女中められた中東相談の窓

元旦の昨日、衛生相談所(あいりん会館)の窓口にいらぬめられた。それは、どうやら市民生協のエイライさんのさしひねらしい。

これで俺達釜ヶ崎仲間者の中をいくつ困つたもんやあつても、どうしようもなくなつてもたの仕事なんかあるわけないし、体こわして人間でも水飲んで青カシとけ、とあいつらは言いたいらしい。

金のこと知らんにもほどがある。俺達のこと全然知らん人間が金の行政やってるんやからたが悪い。それに俺達に何度も何度もウソばかりついてきた。

俺達は市民生協と二回の国交をもつた。その中で役人

に確めさせた一番大事なことは次の表や。困った金々時
井川君を収容させるだけの施設(中庭)に、じきよう給食
じを用意する事だ。

行政は「ちやんとやりましょ」と言っているから、今
になつて知らんと言つ。大蔵省の戦時対策は今年を越す
だけだから、年々盛つて正月になつたらあつたは知らん
とめかしたんや。元氣になつたら青サENSEはあかん人回
がなくなり、皆の仕事にも行けるようになると思つ
てるんや。

中庭の施設が明けあつてこのぐしかな
ネクタイしめてイスにふんどり返つていような役人
はもう信用せん。やりも同じやし絶対信用せんや。
信用できるのは仲間の仲間しかない。確度が倒れてるモ
ンも病院に連れていったり、少い金を出さおつて、メシ
を食つてないモンにメシを食わしたるしかならんや。日
白商店や。他人を助けることは、いつか自分が困つた時
助けてもらうことにつなはつてくる。皆で助け合おうや

ないか。

「いかに、儲るといふ事は、テナントがある。メシの用意は
中庭にしてある。そやけど行政が裏切つたから、みんな
食う方には困つた。

金があるもんは与まつたことええから出してくれり体
のわいてるモンは、解れてるモンを探したりするのやて
つたつてほしいんや。そして、無責任な役人行動に後遺
の怒を示そう。

◇夜、テナントにて中庭相の窓口打切り、テナントの収
容能力の限界について、どう考えよう解決するのが
の大衆的集会を行う。「中庭相へ押しかけよう」の
声が強く、結果抗議行動を行う。基本的には青カン
する事のこやが確認される。

八日刊「えつてつ」よりメス日務刊

昨日、夕から時頃、仕事をやめてしまつた学生相談所
へあいらん会館へへんひでめしかけた。恐れをなした

◇中庭相打切りに対し、抗議電報を打ち、同時に教員所
に抗議声明を貼り出す。

抗議声明

大阪市民生局 片山主幹殿

貴局は、我々越冬対策実行委員会との約束である市
立更生相談所を窓口とする無料宿泊あつせんを年末の
外で打ち切り、多くの若者に青カンをおこすこと
死に到らしている。

我々は、ただちに約束の通り、業務を継続することに
を要求する。

一月二日 釜ヶ崎越冬対策実行委員会

◇夕食前、食料配分問題について解決を図るため、大衆
集会を行う。

実行委から、越冬対策の趣旨、この向の中庭相打切り
と、これに伴う食料の総消費量の問題等をまず説明し、
参加者からの発言をまとめる形で進められる。

か、あいらん会館の電気を消してマツコラ。「話や
しにきたんやかうでて二い」つてもナシのツブテ。ど
うこうしているうちに、ボリが五人(私服一人)やつて
きた。「通る人間のジマにひるから帰れ」ぬ、ぬ、ぬが
る。おまけに集会やるんやつたら公園でせえといふ。

ハッ、エエカゲンサラヤ。オマエラは、シッポさえ
ぶつてたりやんと御主人様かエサをくれる。エサほし
まにせんやイヤガラヤするんやうけや、エエカゲンにし
てかな、しまいにイテマウテヤ。

◇夜、実行委の要請に対し、医療センターの平田医師(
院長)がテナント前に来て、正月期間の臨時診療を約束。

(一月二日) 晴れ

◇ちやんちやん会・10時より一故郷のこやを思つて各自
に渡する若者もいた。

◇一時、ちやんちやん会 10人抜き・重手、ちやんちやん品にし
た。

飯の喰える、寝る、は生死の問題である。このため、若竹着内部に非常な高い緊張状態を生み出すのである。

集会の結論としては、夕食時間が遅れるが、食券を持っていない人には全額に行き渡さうと炊き出すことに決定した。

(1月3日) 晴れ

◇1時、健康診断 この日病人が受ける。
◇ソフトボール大会 8チームトーナメント、実行委員が人も入っていたチームはエラー連続で完敗する。

優勝：杯チーム 看護婦さんおめでとう
◇たのしみについて
◇日記「えっ、もう1日、4日連続
みんものたのしみ

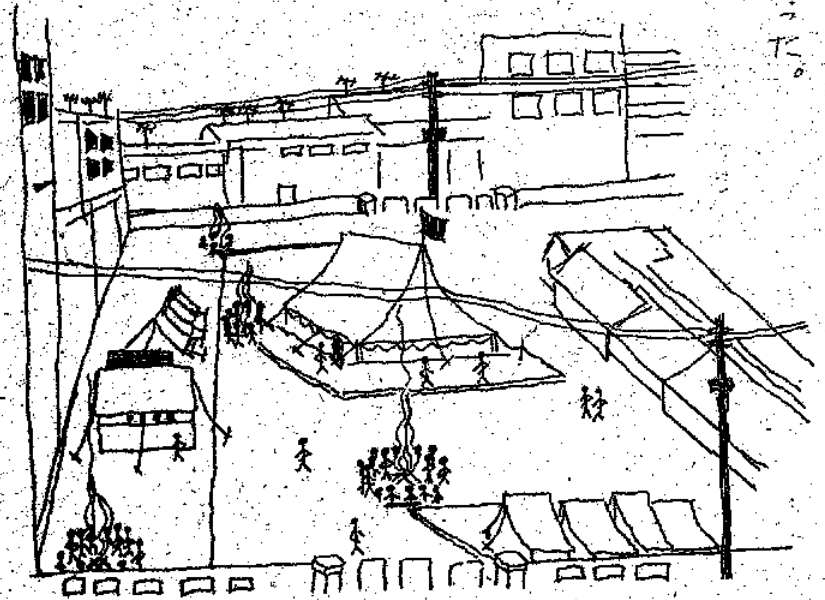
昨夜、タキ火の音で眠りを覚ましていた仲間からたのしみを聞いたという音が起り、音の音を止し、たのしみを止めた。その音でカンの活動が始まった。まず趣音がタキ火の音で仲間になえられる。椅子が一列を並べられ金が集った。タキ火の音で前になるので趣音の説明し

◇この夜はハトロールに廻っても、今までにかなり収容したこともあって、ほとんどあたらしく収容者がなく、テントのまわりで炊き火を囲み、青カンしている若竹者たちに、テントが空いているので疲れている人から順番に寝て下さい、と云って廻ったが、若竹者はお互に譲りあって、この夜はテント、宿泊問題はスムーズに解決された。

◇この夜はハトロールに廻っても、今までにかなり収容したこともあって、ほとんどあたらしく収容者がなく、テントのまわりで炊き火を囲み、青カンしている若竹者たちに、テントが空いているので疲れている人から順番に寝て下さい、と云って廻ったが、若竹者はお互に譲りあって、この夜はテント、宿泊問題はスムーズに解決された。

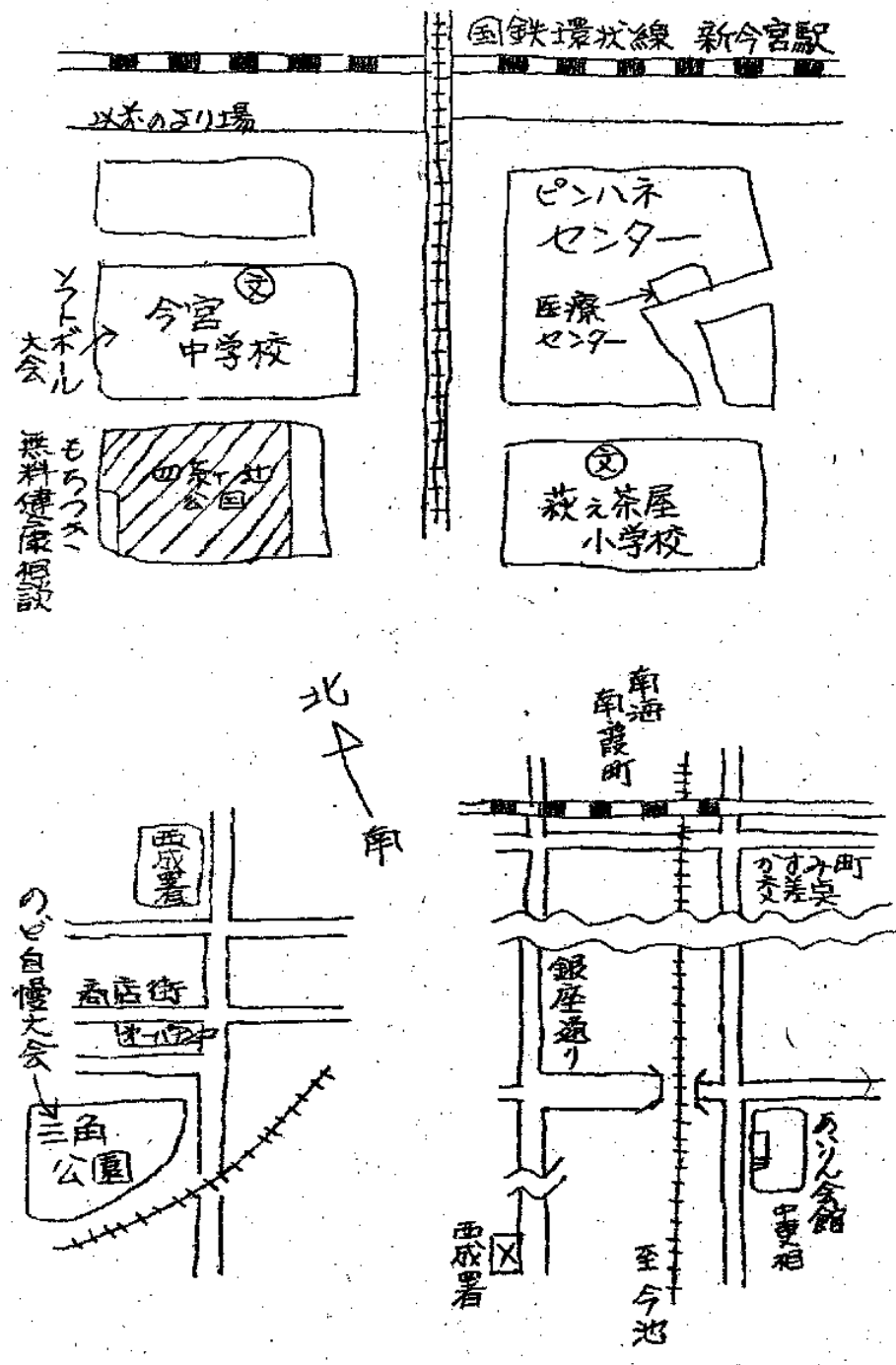
◇テント村の片付ワー 午後2時頃終了。
※なお実行委の約 数名は4日からセンターが就労あつせんを開始しても、ほとんど仕事がないという状況から5日まです夜間ハトロールを継続、病人の病院収容、にきり飯配りを行った。

テント村風景



◇朝食後、就労斗争 行政に対する抗議集会、百名程が参加(ワ時、8時頃まで)。ポリ公は厳戒体制。
◇テントに宿泊した病人は、この日から業務を開始した
中東相下準備二階に行かん。

(釜ヶ崎越冬地図)



テント村の敬告備から 笹世省三

25日、29日のパトロール、極り飯配り活動を受け継い 調へにかかった。その際、無断でテントに入りこんで寝
 で、30日、4日朝までは西条ヶ辻公園にテントをばらまいて、マいる人達には「心配きてもうって、我々がテントの
 の越冬斗争となったが、とりわけ一日は行政(市)中で寝たいのは青カン(野宿)している者はみえむ二緒
)が当初の約束である「正月期間も中央更生相談所の窓 でおつと思っで、いっので協力して一担外へ出まはし」と
 口を閉く」ということを、パトが満員であるという理 いう趣旨のことを説明していった。

由で一方的に窓口業務を打ち切った為、実行委の予 として問題の起きたテントでも同様のことを云ったの
 想を大幅に越し、一日平均二百名程がテント村(公園) だが、無断で中にいた二人の向で口論が始まり、つかみ
 に集まる結果となった。必然この争は飯の配分、テント 台いどだった(この二人をA、Bとする)。この過程を
 の収容能力等から、数多くの問題をかかえた。その一、 簡単に書くところAの方は我々の説明で納得し、出るつも
 な次のことである。

争の発端は、パトロール班が午後7時の定時パトロー りで横に寝ていたBにも声をかけたところ、Bが「も
 ルに出かけてかつ、我々テント村の警備班はそれまでの う寝てるのにかたかた云うじ」といったことからもっ
 経緯からその日もパトロール班が退勤者、病人等を発見 川、感情的対立にまで発展してつかみ台いとなった。一
 し連れてくるという想定の上に、各テントの収容能力を その後A、B共外に出て再び台いとなった。

我々警備班の内三名がこのケンカを静めようとしたが

ただらう。

仲々静めることが出来ずに、これ以上長びくと権力の外

我々はあの時、かむの対応をすまなかったのだらうか。

入を受けお恐れが出てくること、我々の判断で、何とか二

私の若干の考えを述べ、ケンカを制止することに当って

人を分けてAの方を説得しつつ若干強引にテント村から

回すどころが正しいのか、革命的方針をもつのかを言

連れて出た。しかしながらBの方は我々の制止を振り切

らんで大衆的にハッキリさせることを考えねばならぬ。

マニマニ村の外でも再びAにもどるかかった。そして

そして正しくないう考え(反革命的)は革命的(革命的)を持ち

結局はBの方が自分の判断でトビ走るも、我々は

更に反革命的行動に出る者に対しては我々がまず断固と

りをつけておかないと出来ぬか、たのである。

した態度をとることも必要だったと思っている。

この事は、我々の越冬斗争への取り組みが、釜ヶ崎労

その為には一定の力をバックに持ち、大衆的に批判し

働者に徹底して学ぶという追求段階であったこと、対立

処分を加えていける基本的体制を我々が序々にでも用意

の消極的要素となつたように思われる(、前身の教訓が

していかねばならぬ)。これ抜きにして人民大衆の

ないこと、現在の力量面懸念はあったとしても、お我々

信頼と決意は勝ち取れなだらう。そして私は、この警

がためて考えねばならぬものを感じてゐる。

備問題を発展させていくことを絶対必要だと考えてい

主要な困難点は、テント村でのケンカは、権力の関係

る。この中に希望が感じ出せるのである。

で、おびやかすこと、かく制止しようとした我々の考えを、

対立のし方であり、そして結局は、このことである。この様

む対応は、おそろしく労働者内部に、い影響を与えなか

釜ヶ崎労働者から学ぶ 南川洋子

今年の越冬斗争には、釜ヶ崎の労働者から学ばないと

のうけいお、ちゃんは、その後も私たちと一緒に越冬に

う観点で参加した。釜ヶ崎に接して半年以上にもなるの

参加してパトロールに回ったり、たき火にあたっている

に釜ヶ崎の現象的な争いも理解してないことに気づき、

労働者がタバコをすえるようにと釜のある者から金を集

越冬で初めて釜ヶ崎の労働者に実際に接することができ

めタバコを賣ってきたり、いろいろ多くの争をやった。

た。私自身のなかにある釜ヶ崎への、偏見をうち破り、

この次の越冬の時はいくさんのカンパを集めてやる。

いかに労働者と接するなかから、釜ヶ崎の労働者を偏見

とほりきって、いゝお、ちゃん、お、ちゃん。

なしに見ることが出来たと思つ。そしてその作業は、後

そしてもう一人のお、ちゃん。私たちが、お、ちゃん、

ひき続きおこなわれなければならぬと強く思つた。以下

お、ちゃん、お、ちゃん、お、ちゃん、お、ちゃん、

私に越冬を感じた事柄をあげてみたいと思つ。あくまで

つかつてしまひ、ドヤはあつたが、腹をぬく、困つてい

も私自身の感想でしかなく、またまた釜ヶ崎を不充分

た。お、ちゃん、お、ちゃん、朝私たちがテントを

にしからえていないと思つ。

はっている公園にやつて来て、水はこびや、公園の掃帚

31日の三島公園で行われた紅白歌合戦に對抗しての

労働者が自分の食べた食器を自分で洗うのをあれや、こ

薄装大空で私も数人の女の子たちと一緒に歌を唄つた。

やと指導したり、とても私たちには出来ぬことをや

この時、私の唄の司会としてくれた、えのけん、のまね

た。お、ちゃん、神経痛が出るで、うちらが運ぶから、

といつてもよかむかつたおっちゃん。こんな積極的に仲間のために働く人々がたくさんいることを知り、釜ヶ崎の労働者のもう自覚性のすばらしさを痛感した。

その反面、誰に頼ることもできず、自分で自分を苦しめ酒を飲んでその苦しみを忘れようとしていた労働者が多世にいたことも知った。手にケガをした一人の労働者が医療テントにはこび込まれた。かなり出血をしており、しきりに「死なせてくれ、オレは死んでもええんや」といつていたが、まわりの労働者はけまじりに「オレには子供がいるんや」という。他にも自分でも体によくないと思いつながら、酒を飲み、酒でその足りずしうちゅうを飲んでいるといつ労働者。今年の歳暮で本堂に多くのことを学んだ。釜ヶ崎の労働者ひとりひとりがかかえている問題を私たちが真剣に自分自身の問題として、共に解決していく。釜の労働者から信頼される人間になること。これは口でいくら云っても信頼されるものではない。真剣に釜の労働者のことを考えて、釜の労働

者の望んでいふことを私たちが実行するかによって信頼関係が生まれ得ると思ふ。私たちの歳暮贈りにもかかわらず、何人かの死人を出したことを切実な問題として、仲間のために働き、仲間を絶対的に助ける。越冬、仲間のために働き、仲間を絶対的に助ける。越冬、仲間のために働き、仲間を絶対的に助ける。越冬、仲間のために働き、仲間を絶対的に助ける。

友人への手紙

浅野 宏

前略、手紙を書くことになっていましたが、遅れて申しわけありません。

大阪にきてからの報告をしますと、十一月二十五

日から、釜ヶ崎（以下釜とのみ書く）の夜間パトロール

（これは、路上で野宿し青カンというしてある労働者

を、病気の人は病院に送ったり、おにぎりをつくって歩

いたり）を行いました。公園にテントをはって、野宿（

青カン）をしている労働者に提供したり、病人用テント

を作り、軽度の病人はこの中で治療したり、メシを食っ

てない人にたき出しをしました。

五日以後、釜を横からながめただけでは、全く釜の状

況も、釜の労働者の意識も理解する事ができないという

認識の下に、僕自身、釜で日雇い労働者を行っています。

釜の労働者は、「労働者」と呼ばれ、差別されています。

す。これは、支配者が、人民内部を分裂させ、支配を容易に行うために、「部落（民）」を作り出しように、彼

らの分断支配の一つです。（部落差別は、今もなおつづ

いている現象がありますが、それは後日にまわします。）

労働者でありながら、労働者とは異なるものであるかの

様な意識を生みださせる「労働者」の存在は、支配のみは

必要なものであつて、我々には必要ありません。それど、

ろか、かえつて、革命の準備を遅らせるものでしかなく、

この「差別」は、打倒以外の何物でもありません。

釜の労働者は、他の労働者のいやがる様な労働を強制

され、なおかつ、他の労働者が「日本の繁栄」に日雇いの国外からの搾取（のおこぼれにあずかっている）債上の

べは、日雇のおこぼれにしかあずかれないのだ。この比べ

全く、日雇のおこぼれにもあずかれない。徹頭徹尾搾取

され、取奪された者者なのです。

マスコミ陣を通じ、釜の現状、一面だけを誇張され、ワイロされて宣伝されています。

畢竟、釜の大部分の併州者は、酒なしでは生きていけない。だが我々は、なぜ釜の併州者が酒を飲まざるをえないのかという本質を見なくてはならない。畢竟、僕も日産の併州を行いだしてから、毎夜の様に酒の飲んでいます。酒でもの手はないとやり切れないという心境です。

人のいやがるような併州を強制されへ併州の性格、使いたすの大きく併州者として（支配者の政策）、他の併州者と差別されへ支配の構造）、又、釜の併州者の心理につけこむ態度、暴行団、ヤマンデル等に骨の髄までしやぶらひ（資本主義の心算）等々といったことが、釜の本質です。

僕の向題意識は、資本主義に徹底的に搾取抑圧されていよう併州者に依拠し、彼らの「問題」、「存在」を自分の斗争の中ほどの様に吸収し、反映させていくのかとい

うことです。彼らの存在ゆえに革命は一切諦りえない。

彼らは、革命は知らなくとも、支配者（やり）に対する憎しみは、絶対であり、以上の釜の本質から必然的に、体であじわされた結果です。（暴動こそその表われです。）

彼らの権利に対する憎しみは、学生の様には、頭の中を命を考えた者以上に徹底しており、社会の革命を願っている。しかし、その方法が理解できずにいる。

結論として、へ革命の方法、指向には全く現時点ではあるが、唯よりも革命を必要とし、潜在的な革命勢力で14あるといえる。

学生やインテリ併州者に対する工作よりも何倍もむずかしく、長期的な工作も行わなくてはならないが、彼らが決起した時、日本革命の内実は、変化する。

以上簡単なから報告と釜に対する自分の認識を書いてみました。

釜ヶ崎越冬斗争に関わって

釜ヶ崎 信康

山

釜ヶ崎越冬斗争資金確保のため天皇までカンパ、情宣活動をやっていた時、中学生の男の子が我々の渡したビラを読み、いかにも納得いかない、という様な顔をして「兄いちゃん、釜ヶ崎に飢死者が毎年三〇〇名くらいも出ると書いてるけど、ホンママ、上といった主旨の事を我々の仲間に戻向して来た、という事を僕に聞いた。その男の子の家庭は上層階級に属するらしく、男の子は更に「自分の今の生活から考えで全く不思議だし、あないと、又「兄いちゃん、このビラの内容嘘だらけ」とも言っただけらしい。

僕はこの事を聞いて無性に怒りを覚えた。この男の子が疑問もなく、素直に疑ったこれらの言葉そのものが、現在の日本資本主義社会を形成しているのだ。

マスコミや教育機関などは、パレスチナやパキスタン問題については大々的に報道し、教しているへ米帝、ソ社会病とその子や子どもが侵略者であり、彼らがパレスチナ、パキスタン人民を殺りくしているという本質問題にはふれていない。反面、日本内閣のそうした事業を一切葬り去っているのである。

オリンピック、万国博などを開催し、又、冬季オリンピックをも開催しようとしている、国民総生産世界第二位の大国、日本に飢死者など出るとは出ないとして、支配者どもにとって、都合のいい事だけを大々的に強調する事によって、人民に対する搾取、抑圧と、その矛盾の一切をつみ隠すとして、支配者どもに対して怒りを覚えるのである。

その事はまさに如何なるバウバウに示している労働者の困難への一里塚の場なのである。この一環として釜ヶ崎越冬斗争があったのである。

その日の自慢大会に於て、われわれもマイクを取って合をやる中に於てもきちんと順番と並んでハタマはまは全く関係なく、自分の好きな歌やものまねなどをやった事案、又ソフトボール大会に於ては、チーム作りをやって出て、労働者に呼びかけて回つていた労働者があつた事案、又たまたまに於ては、多くの労働者が金とほとんどなく、タバコをもつていないから、と言つてたまたまに於ける労働者にカンパを呼びかけ、五百、十円とある者は出し合つてまとのタバコを買つて、みんなを吸おうと提案し、積極的の動き回つた労働者のあつた事案、等々と列挙していはばきりがない。

こうした事は当り前であり、何も改めて言う必要のものではない、という者がいるかもしれないが、決してそれはない。我々はこうした労働者の積極面を正しく評

価していかねばならない。そして正しく分析していかねばならない。そういつた中からこそ、釜ヶ崎の全ゆる運動の展望が見い出せるものと、僕は確信する。

今回の越冬斗争の成果は、越冬斗争にかけられた全ての者が越冬斗争に於て学んだ事を自ら受けかかっている運動に吸収し、そしてその運動を如何に発展させていくことかであるか、どうかにかかっているのである。最後に、今後の越冬斗争において解決すべき問題を書いておきたい。

一、仲間同士で協力しあつて越冬斗争をやろうとするから、釜ヶ崎以外の地域には積極的にカンパ・情實活動などをやつたが、釜ヶ崎労働者に於ては非常に消極的であつた。

二、本当に困つた労働者に対して、手を貸すなどが必要であつたのではないのではなから、という批判に於いてもっと地味調査をやる必要があると考える。

労働者の社会主義的積極性

西田 洋

われわれがこの越冬斗争をなぜ行つたのかについて、教

受確認したわけですが、その一つとして年間三百余人に及び労働者が道に於て、公園の方すみで死んでゆくのを同じゆく仲間同士が助け合い、過死者を出さぬのを務めんとした。それが、

的に被り打ちする方向に向つたければ解決できない。す。ぬくくとして、人間があわれみをもつて、助け合ふべきである。ブルジョア共の道徳としてやうに、その人が善悪の拵主であつても同情するもの、ほめて、ほめて、自分がいかに人間的であるからやうなうに自己満足させるだけのものにすぎない。

労働者人民に犠牲を強いるブルジョアに対しては、労働者が、それを打ち倒すために、いかに闘争の場を広く、広く、いかにあまたある慈善事業を如何にかわりなく、この奥に奥し、情がもつたか、かえれば、この困難が十分に認識（ん）に於て、もうえられぬ（出来ず）、かわらざるである。その考えが、いかに、いかに、自分分での、やうである。いかに、ある同志から指

描かれて気がついたのです。

俺が夢んだ一つのこぼれとして、そ沢東同志が指摘している「大衆の中には、きわめて大きな社会主義的積極性がひそんでいる」と云う事である。実行委のメンバー外の労働者の中から、数多くこの斗争に積極的に参加する労働者が出てきた。炊事を陸頭になつてする人、テント会場を朝から晩まで、スミからスミまで掃除する人、ツ

フトボール大会において労働者のチームを組織する人、パトロールに参加する人、ドヤのおぼろやんの所まで行ってカンパを集めに行く人、トントン（たき火）の材木を運くまで取りに行く人、俺の目についた範囲だけでも積極的に動きまわる人がこれだけあった。実行委の人達の活動もさういふやうに、労働者のこのさうな活動があったが故に今回の斗争が支えられたさうに考へる。

なぜ、労働者の中にこのさうな変化が表われたのか。われわれは人民に奉仕する事とを決意し、その実践の一つとしてこの斗争を行った事と。そして初めに書いた通りに生き生きとし、喜びに満ち満ちた顔をして動いてゐるのです。これが本来の労働者の顔ではないか、姿ではないか。すでにプロレタリア権力を握った朝鮮、中国、バトナム、キューバの労働者人民の顔におそく似てゐるのではないかと考へる。

「人民文衆は限りの創造力をもっている。かれらは

さうにわれわれが同じ仲間同士である事と云つた態度

と、その実践が労働者に、部分的にはあるがわれわれに対する信頼として、このさうな変化を生み出したと思ふ。だからと云つてわれわれの人民に奉仕する態度の裏に、誤つていた事の方が多くあつたのではないかと感じます。

ここで明かしておかなければならぬ事は、われわれが徹底して人民に奉仕してゆく中にしか、人民大衆のわれわれに対する絶対的信頼を得る事が出来ぬと云う事だ。

そしてこの斗争が、支配者共により日常不断に砂の山をくわはらうにされて来た釜の労働者が集団として、又その一員として動くための媒介になり得た事だ。積極的に動く人々は、ささしく自分の利益のためにだけに動いてゐるのではなく、集団のために動いてゐるのである。その事は、百の言葉よりその労働者の顔を見れば解る。

「人民、ただ人民のみが世界の正史を創造する原動力である」と。

越冬斗争に参加して 堀川 康子

初めて越冬に参加して、今までの私の運動に対する理解、意識に肉して全面的に本意を問われた五日間だった。私は釜ヶ崎を知らなかったし、この越冬でなおさら驚くそれかわかつた。

まず自分と釜ヶ崎労働者との生活意識の違いだ。今まで私は、とにかく運動をしなければならぬ、というた

た裏然としたところを活動に取りこんでいたやうな気がする。はつきり階級意識も持たぬままに、何かにかりたてられるやうな思いでその時とどろえたりなかつたと思ふ。

なぜなら活動の反面では、自分の生活向上、将来への見越し等、無意識のうちに私欲な身を持って日常を送

つていたのだから、それは活動をどこかで分離してとら

えている事実の表われである。あの抗談行動を求道的な

道を感じた。彼等は裸でいつも身構えている。身体一

つの外になにもものをも失うべきものもなく、彼らはなに

をも恐れぬ気概をみな、さうしている。

釜ヶ崎峠に、今日、明日という期間の限定はない

のだ。仕事においても、私は安定性を重視して態度を違

別してきたし、その上でこそ地 についた活動ができる

と思っていた。まったく別々に考えていた争の証明であ

る。しかし、秋を斗争にかけた時、階級斗争と連帯と

は、同じく反対運動等もその生活上の要求斗争以前

の問題であり、それは生死にかかれる生命の要求斗争だ

と思つた。

現在私は釜ヶ崎以外の地に住んでゐるし、下層労働

者に接する機会も少ない。これからいろいろな機会を

通じて釜ヶ崎に接していく事だ。そして、この日、こ

整風運動について

北村 始

Ⅰ 南大阪解放戦線と整風

革命という大事業をよりよく拒つていくことができる為には、

整風運動を「現在もやり、将来もやつて、たえず自分の

体についている誤つたものを一掃しよう」と「吾輩」オ

一男はよびかけた。この提起はきつめて正しい。

我々、解放戦線戦士は、整風運動を、具体的な実践か

ら遊離した単なる「おしゃべり談話」に墮落させること

に反対する。机上の空論から革命運動を生み出すことは

できない。従つて、「討論の為のテーブル」では、革命家

たちの意志統一・団結をかりとることはできない。「マ

リアデー」という提起を真剣に受けとめることが必要で

ある。

Ⅱ 同盟から整風運動が提起された時には、私は従軍

にいたが、その後、いへい入らへてくる日記等を讀み限り

わすかの期間だ。だが、より集まって生活し我々の回

にすばらしい思いつきも出だし、それだけが自分の気の

ついに奮闘でみんなを動かしてゐた。その時では、

気がついた事は自然に他人でやるといつ気概は湧き湧ら

ていると思つ。我々はこれからも長くだろうし続けてい

かねばならない。何よりも擧げ、和圧されている労働者

が団結できる場をたくさん作る事だ。さうして、一人一

人が後いつのひかりを築めることが出来ると思つ。

では、整風運動の大部分が単なる觀念的な「おしゃべり」

に墮していることを痛感した。だから、獄外の戦士たち

にたすねたりのことと云えば唯一つ、「で、一体、今何を

やつているのですか」ということであつた。それくらい、

整風運動は具体性を欠いていたのである。さういう中に

おいて、南大阪解放戦線の同志たちは、きつめてすくべ

た問題意識をもつていた。

すくべた側面として次の点があけられる。

(1) 整風運動は、具体的な革命運動であることを理解し

ていたこと。従つて、「言葉」の上で口で整風を云々す

るのでなく、南大阪の具体的な実践をもつて、整風と

は何であるかを全国の戦士に提起した。

「南大阪の種」の発行は、この上で非常に大きな役割を

果たした。

② 観念的な前提から出発せずに、現実から出発した
こと。「人民の生活に関心をよせなければならぬ」と
という指示に基づき、人民の日々の利益を真剣に考え、
具体的な政策を打ち出したことなどに象徴的にみても
ることが出来る。(具体例としては、保育所の設立、
釜ヶ崎越冬対策へのとり組み等があげられる。)

カロレタリア的な生活基礎を打ち立てようと試みたこと。
誤っていた側面としては次の点があげられる。
(1) 幹部政策に失敗したこと。(革命の後継者を指し、
養成することができなかった。)(2) 橋下体制が確立しなかつ
たことは、必然的に南大阪解放戦線の崩壊につながったの
である。

③ そして右のような政策を策定しようとする中で、
人民の権利の樹立(武装自衛)の問題を追求したこと。
(4) 入管斗争、部落解放斗争のすぐれた点に学び、政
治と生活をつなぐ、感情と「理論」の分裂、本質と
たてまえの分裂を克服しようとしている。このことは、

②「人民に奉仕する」という思想をかく得ることがで
きなかつたこと。このことをいふだけでも具体的に明らかにな
る時に、獄中において南大阪の同志たちに書いた手紙から24

「私の丁度に見られる如く、きわめて重要な試みて
ある。このことを妨げずにして整風を「行え」は「修養」
路線におらるのである。すなわち彼らは、富農的世
界を改造するだけではなく、その過程で、自己の主観
的世界をも改造しようと試みたのである。

— この向、関西の同志たちは、「大衆の中から大衆の
中へ」ということを主張し、大衆の問題意識を掘りおこ
し、「大衆の生活を組織しよう」として来た。ところが、
その大衆の中に在野戦士が含まれていたため、在野
戦士の問題意識を「掘りおこす」時の「獄中通信」の発
行に充分でなく、在野戦士が軒を考えているが、いか

(5) 南大阪解放戦線の構成員の生活を強固に組織し、
なる生活を送っているのかを調査せず、従って今では
組織の構成員の生活すら知らずに「大衆を組織する」とな
どと語っているのです。これは、大衆の生活など、と
て組織できるものではありません。——
即ちこのことの意味的価値の一つとして評価されたものである。(ヘー

とかができる。—— M.L. 南大阪F.L.の教訓を心まえ、出獄後半年間
の斗争を総括する中で、我々は越冬対策にとりくんだ。
我々は、国家権力と対決している最下層の労働者—
彼らは現体制の中においては常に報われることがない—
と結びつくことを追求する中で、整風運動を貫徹した
—

自由主義ばかりに耽溺し、分散があつても集中がな
いといった状況だろつと思ひます。はっきり云えば、革
命的な思想がかく得られていない、ということだろつと
思ひます。——「人民に奉仕する」という思想も、所
詮観念論にしか留えられなかつたのではないかと思ふ。

— 今、斗争を中止して整頓をやり、それから斗争とい
う者もいるし、この斗争を終えてから整頓をやらうとい
ふ「わかれわれ奮闘兵団はどこへ行くのか」という
立場を堅持するものである。

A君は(南大阪解放戦線を批判して)「規律がなく、何
が出来るか」と云っていたが、これは革命的な思想がな
くて何が出来るか、ということだと思ふ。打ち倒された
ければならない誤った思想が存在しており、二つの路線
の斗いを押し進めていく必要があると思ひます。この二
つの路線の斗いを通じて、(我々は)発展をからとるこ

釜ヶ崎における越冬斗争は、我々の整風運動でもあり、
斗争の中で整風を行うことによつて、素晴らしい効果を
あげられることを実証した。

1. 実践の伴わない「言葉」

は空虚である。

「革命」を叫んでも労働者は決起しない。釜の労働

釜と越冬対策にとり組むに際して、実行委員会の中
で次の四点を獲得することが提起されていた。

釜が現実に直面している矛盾は、金もなく、
空腹である。病氣にかかっている。下ヤがない等々を

(1)とりわけ年末年始においては、竹二つにも使えない
く、金も入らず、空腹をかえ例れていく者が、釜の労働

共には解決しなければ、我々は釜の労働者の友となること
はできないのである。

労働者の中から多数出るのにもかかわらず、行政当局は手
をこまぬいている。そういう中で「救う」救われるとの

手こまぬいている行政当局と「ほんのりおすかの期間
であり、ほんのりおすかのことしかできないが、自衛手段

関係ではなく、釜で働く同じ労働者として、自衛手段と
しての医、食、住の問題にとり組むこと。

としての越冬対策を推し進める実行委としては、釜の労働
者の目には、誰が自分達の敵であり、誰が味方であるの必

(2)自衛手段としての越冬対策を行う中で、これを具体
的な批判として行政当局につまみつけていく。

かということか、はつきりと映るのである。従って越冬
対策を行うことにより、釜の労働者と結びつく条件を能

(3)越冬対策を行う中で、労働者との結びつきを追求す
る。

動的につくり出すことができるのである。

労働者の現実を釜以外で斗っている人々に知ってもらう
こと。

2. 党建設の方法を明らかにする

言葉の上だけで、行政当局、警察などの敵確力を批判
してもきりめて空虚である。具体的な行動が伴わなければ

「在野の仁
士と協力し、……革命運動を発展させ、」党

建設の方法を明らかにしていくことが向われている。

前線に闘う戦士によって指導部が構成されなければなら

越冬斗争という具体的な実践を共通基盤にして、釜ヶ
崎の斗争を今右どのように推し進めていくのかという点

ないという見解を断固支持する。党建設の問題に關して
は、更に問題をつきつめられた段階であらためて書きた

について、相互に意見を交換し、地域における統一戦線
としての協議会のようなものを構築することが出来る。

……一運筆を内包する党の問題については
ここではふれない。

これは現実に可能である。また実行委の提起している一
釜以外の人に、越冬斗争を通して釜の現実を知って

る。我々の力は、斗えは斗う
ほど強大になる

もう一つという問題は、党建設における布石であり、全
国の戦士に対する党建設の方向の提起でもある。なぜな

ら、越冬斗争という社会的実践を基盤にして、共通の言
語をつくり出し、相互の思想を確証しあい、それぞれの

人々が抱わっている地域の斗争と、どのようにつながり
をもち、相互に助けあつて国家権力と対決していくのか

かあった。「我々の力量が小さいから、(それに規定さ
れる)方などがその例である。

という具体的な討論が展開できるからである。

我々が、誠心誠意「人民に奉仕する」思想をもって

おしよべり議論の中から党を生み出すことはできない。革命戦争は
我々は敵権力との斗争の中で、団結の方法を明らかにし

革命戦争は大衆の戦争であり、戦争をするには大衆を動
員する以外になく、戦争をするには大衆に依頼する以外

ていくものである。そして「行動こそ前衛」であり、最
にないという人民戦争路線に基づき、人民の利益に合致

する以外になく、戦争をするには大衆に依頼する以外

する敵軍を打ち出し、斗争を貫徹するなら、我々の力は 返しても、それはあたりまえのことである。

小から大へと転化していくことができる。人民戦争の具
体的な例として、「弱」でもって「強」と対決し、「斗
えは必ず勝利する」インドシナの革命陣力の事を我々
は知っているし、彼らは斗えば斗うほど強大になってい
る。

釜ヶ崎越冬斗争 においても、多くの労作者の決起
を促すことができた。「テント村」の掃蕩を自発的に行
う労作者、炊事のため水くみを行う労作者、カンパを要
請し、青汗ンをしている労作者のためにタバコを買いみ
んなが吸えるようにした労作者等々……

我々がやる斗争の内容を明らかにし、人民大衆のもつ
限らない創造力を信じ、大衆の中にひそむ社会主義的積
極性に依頼するならば、我々にとって克服できないよう
な困難な問題が一体あるであろうか。

しかし、「人民に奉仕する」思想をもたず、「大衆に
依頼しないならば、斗っても陣力は大きくならず、敗
本能せず、その発展もない」ということを学ぶことがで
きた。ここでは深く「こんな闘争の問題については小
れない。

5. 人民に奉仕する

越冬斗争の中で、病気の労作者、飢えに労作者に接し、
自分自身に対して無性に腹立たしく感じた。

なぜなら、釜の労作者に接して、悲し道をしち、誠心
誠意人民に奉仕することもなく生きている自らの犯罪性
を暴露されたからである。

私は、それまで続けてきた斗争の過程では、「死んで
も敵軍には屈服しない」とつもりであった。併し、そこ
には、誰の為に、誰の為に生き、誰の為に死ぬ
のかという極めて重要な点が、強固に自覚を以ておらず、
多分に宙吊りになっていったと思う。

「人民の為に生きてこそ人民の為に死ぬるのである」と
という言葉が、越冬斗争を経た今日では、今日の自分自

4. 会場 警備の問題について

越冬斗争の中で、とりわけ警備の問題は重視されなけ
ればならない。なぜなら、警備の問題は人民の敵力の問
題の裏面に入り込むからである。一言して越冬斗争に対

する妨害活動があり、これをいかに取り除き、いかに越
冬斗争を成功させるかということに常に考えたが、中で
も、主に力点をおいたのは、敵軍の介入の問題であ
った。「テント村」をいかに「解放区」化しようと、我
々の圧倒的な警備力が準備されていない限り、越冬斗争
の成果は、一瞬のうちには水泡に帰してしまうのである。

我々は二十四時間の警戒体制をしていたが、常に一解即発
の緊張関係の中に自分の身が置かれている事をひしく
と感じることができた。また、統一戦線の中には、自覚
的な規律を備え、指揮系統のはっきりした、行動性のある
部隊がないと、斗争の発展もなく、統一戦線もうまく
いかなかった。統一戦線の中にも、統一戦線の中にも、自覚
的な規律を備え、指揮系統のはっきりした、行動性のある
部隊がないと、斗争の発展もなく、統一戦線もうまく
いかない。

以上、釜ヶ崎越冬斗争の中で感じ取ったことを若干書いた
が、この斗争の中で、より一マルクス・レーニン主義
も深層思想を学ぶことができたという感想をいしてい
る。

マルクスルの涙をぬぐう

(最下層労作者と結びつこう)

吉田 杏子

私が釜ヶ崎越冬斗争に参加する直接の動機は、世間一
般でやれ暮れだやれ正月だと騒いでいた時、釜ヶ崎本
当に看を細まればならぬ人々(労作者)が生死の境に置
かれている状態を私自身どうするのかという問題意識か
らなので、三十日(具体的には三十一日)から四日
にかけて、次の点を深く考えさせられました。

一、東京での斗争の過程を私があたかもロレタリマ
ート（待て最下層者）を知っているかのごとく、口を
ついたので、結局言葉上表面的なもので、その内実（実
体、骨）については全然わかっていなくなつたという事
いかに軽々しく言葉を使ひすぎているのか

← 私自身の斗争に対する姿勢と運動体の問題

一、私が斗争をやるのは、斗争の場だけであつて、生
活は斗争とは切り離された別個のものとして存在してい
るのが、釜での越冬の期間中二十四時間が二十四時間と
も斗争の場であつたという事

← 一方において革命を思考しつつ、一方においてスブル
的な存在基盤を確保している事実

← 斗争と私的生活の分裂

一、釜の労働者との対話等にも現われこころのだけ
ども、結局マルクス、レーニン主義を心から受け取らな
い

関西新空港粉砕の闘いを

巻き起こそう。

関西新空港粉砕
婦人の会

政府は、神戸ポートライランド沖、泉南沖、明石、高 以下の文章は関西新空港粉砕婦人の会が学習したものなる
砂浜等に関西新空港候補地を二戦、三戦し、地元住民の、空港のこの種事的側面をまとめたものである。
生活や空港反対の運動を無視し続けている。政府のこの山 官制組織

公費の多い空港は十一月八日にもつたれば騒音調 、「つい先日ある晴れた朝である。日本の管轄に
査の結果を明らかにしようと、多くのごまかしをしない になっている太平洋上の空域には様々な飛行機が航行して
。大型航空機が増え、商用ヤシキラーの海軍艦艇使 いた。ライオン発着田行の米軍大型ジェット輸送機C141
用が年々ふえ、過密化した現在の伊丹空港は国際空港 、ウィーキから厚木に向かう米海軍戦闘機隊機F4U十数
としての役割を果たさない、そのために関西新空港の建設 機、沖繩からミッドウェイにはC141、横田から米本土に
が必要だといっている。

しかし私たちがよく考えてみなければならぬ。現在 機、パン・アメリカンが横田に、グラムからは韓国へ、そ
の空がはいればいよいよたまたま新空港を建設するのだら の他にもグランド、カムラン、バンコック、フィリピン等
うた。そうすれば、新空港は日本独占資本の海外侵略 から何れも清らかならざるを得ない日本の空を因襲くまうに
、キーンと新空港の軍事施設としての重要な役割を 米軍機が飛来していた。それらにはF4UやF6F等につい
果しては日本の空を占領する。たつて。 ずなく民間機がF15から東京へ飛行して、自由

10時現在まで米軍機35機、5機のスターター機、1機の民間機の航空管制を妨げられたものから、実績上の数。

向機入インシデント、計8機交洋に飛去した。1月16日米日係条約の条に基く施設、区域の空に日本國の航空機、月16日の平和新聞に掲載された文面によ、空港における航空機隊の隊形を述べ、「その6条に基く使用したの機種の割合からして日本の空軍は軍事航空機を運用するに堪能である。」

米軍の空域自由使用は、管制組織の領域において、自は、防務責任担持機隊(米軍の自衛隊)が保安管制をなす。東京久留米町にある航空交通管制本部は全国を三行に分けて運用する。

この区域の管制については、管制官は機隊日本上空を北部、中部、南部の区域に分けておける軍事警戒網(防空識別区域(AIDTA)の各層を通過するものに、その飛行状況を陸軍に於て自衛隊の航空機動向確認係(AIDTA)に連絡し、それを通じて日本空域を飛ぶことになる。民間機の動向は米軍の防空官(AIDTA)に知らされる。

航空交通管制組織の管理と運用は空軍(以下米軍)の責任である。陸軍は日本の航空交通管制本部は米軍の軍事行動の下請を日軍的に行うことになる。しかも米軍機、自衛隊機の往來の向を定める民間機の航行は米軍機の防空官の管理下にある。

防空事務に従事する航空機。あらかじめ計画された戦術的演習に参加する航空機。あるいは米軍が自由使用の空域を警備する部隊の体制を認める。

1) 防空の日本は、民間の航空機隊の運用を認める。米軍の防空官は、民間機の飛行を監視する。高度制限、航空交通管制本部の運用を認める。

2) 防空の日本は、民間の航空機隊の運用を認める。米軍の防空官は、民間機の飛行を監視する。高度制限、航空交通管制本部の運用を認める。

3) 防空の日本は、民間の航空機隊の運用を認める。米軍の防空官は、民間機の飛行を監視する。高度制限、航空交通管制本部の運用を認める。

4) 防空の日本は、民間の航空機隊の運用を認める。米軍の防空官は、民間機の飛行を監視する。高度制限、航空交通管制本部の運用を認める。

5) 防空の日本は、民間の航空機隊の運用を認める。米軍の防空官は、民間機の飛行を監視する。高度制限、航空交通管制本部の運用を認める。

6) 防空の日本は、民間の航空機隊の運用を認める。米軍の防空官は、民間機の飛行を監視する。高度制限、航空交通管制本部の運用を認める。

7) 防空の日本は、民間の航空機隊の運用を認める。米軍の防空官は、民間機の飛行を監視する。高度制限、航空交通管制本部の運用を認める。

8) 防空の日本は、民間の航空機隊の運用を認める。米軍の防空官は、民間機の飛行を監視する。高度制限、航空交通管制本部の運用を認める。

9) 防空の日本は、民間の航空機隊の運用を認める。米軍の防空官は、民間機の飛行を監視する。高度制限、航空交通管制本部の運用を認める。

10) 防空の日本は、民間の航空機隊の運用を認める。米軍の防空官は、民間機の飛行を監視する。高度制限、航空交通管制本部の運用を認める。

航空港を作りたくないやいませ
巻き起こそう!!

「春雷」創刊号残部若干あり
頒価五〇円
安保万博粉砕闘争、公判ニュース
No. 1 三〇頁
No. 2 五〇頁(意見陳述特集)

編集後記

編集長代行の猛ハッスルのおかげで、「春雷」が二巻を出すことができました。

当面は、内容の充実した拜読談を定期的に出せるようにしていただきたいと考えています。今のところ拜読談の「位置付け」議論などは必要ないと考えています。創刊号で述べられているだけで充分だと考えています。

キョウ同志、友人の批判を期待しています。
(編集長 一 大明神)

▼ 編集長、出張のため、編集長代行の大役を、おまかせついでに回苦ハ苦。別リカボリを見てニヤク、ニヤクついなりの履にもできる。……の自衛適利(長より「うるさい。」との声あり。(まじい官僚がネ))

(編集長代行 S)

▼ Y氏「うまくはないよ」とテン十村の風景をかくがなかなかの好評。

▼ 原稿の提出が全体的に遅く、かなり遅れた。できるだけ早く提出しよう。……この内閣も敵対力に堪える武蔵の「」だと思ひし、攻勢の準備は、早くに二した事はないからである。

▼ 出張の朝、又うぐく原稿がござあがるようである。痛まはらずに長安に書くことが必用ですネ。

空港の建設を共に阻止しよう!

アジア人民と敵対する 新空港建設阻止!

住民への犠牲強要を 一切許すな!

全関西の労働者・農漁民・学生・市民のみならず、すでに新聞報道などを通じて知っているとありますが、現在政府・運輸省は、この関西の地にアジア最大規模(二千ヘクタール)を目標とした新国際空港を建設しようとしています。そしてこれに反対する声も日増しに高まっています。

この新空港建設計画を推進する政府・運輸省は、「公共性」、「国民経済的に考えて重要」、「地域開発のため」、「航空需要の増加から」等々といった歐い文句でもって、新空港建設は政府・独占資本によってだけでなくあなたも国民的利益と合致し、新空港が不可欠であるかのよるなイメージづくりを図っています。しかし、われわれはととよく考えなければなりません。本当にそのなのかと。

関西新国際空港の建設に絶対反対する大阪地区労働者解放戦線・釜ヶ崎解放委員会は次のように考えて、みなさんと共に闘うことを呼びかけます。

《国際空港という名の侵略基地》
大阪空港(伊丹)は、戦時中、日本陸軍航空部隊の関西での拠点となり、日本軍国主義の中国・アジア侵略を大いに助けました。戦後は、

壊の結果、ノイローゼになる人も出てきています。
 空港周辺の住民からは騒音公害についての訴訟も起こされており、大多数の住民は公害発生源としての空港の存在に強く反対しています。

新空港は候補地として、泉南沖、神戸ポートアイランド沖、明石沖、淡路島があげられていますが、運輸省の手による騒音調査結果は、彼らが勝手に決めた騒音基準すら上まわっています。

公害の日常化は、水俣、イタイイタイ病等を見てもわかるように生命の危険にまで及んでいます。われわれの生活環境破壊＝犠牲の上に立った文明の発展などはないし、もしこのような発展ならわれわれは断固拒否しようではありませんか。

住民への一切の犠牲を許すな！

空港を始めとし、全島が基地化された沖縄人民は日米両帝国主義による「沖縄返還」が、人民の要求である沖縄から軍事基地をなくすものでなく、自衛隊の派兵による日米共同のアジア侵略の前線基地となることを知り、「沖縄返還協定」粉砕の闘いをくり続けています。

三里塚の農民達は、自分達の土地が政府・独占資本の思惑で強奪されることに断固反対し、しかもその強奪された土地が住民の犠牲をもたらし、アジア人民と敵対する侵略空港建設に供されることに断固反対して今なお日本支配階級の番犬である機動隊のメチャクチャな弾圧にもひるむことなく持久的な闘いを行っています。この英雄的闘いは、現在までに、政府、独占資本をして、空港規模の大幅縮小（当初計画の半分）をせざるを得ないという事態へと追込んできた。

われわれも関西新国際空港の建設絶対阻止の闘いを巻き起こして彼らと真の連帯をしよう！

○経済侵略、軍事侵略に拍車をかけ、アジア人民と敵対する新空港建設を許すな！

○一切の公害、農漁業の破壊等の犠牲と強要を拒否しよう！

○公害発生源の建設を阻止しよう！

○関西のどこにも新空港建設は許さないぞ！

大阪地区労働者解放戦線・釜ヶ崎解放委員会

大阪市北区浮田町十一

関西レボルシオン社

TEL 06(341)3479

訂正	行	内容
P1	下段	12行 濁らす→濁らす
P4	下段	8行 怒を→怒りを
P10	上段	16行 結局したことをある
P13	下段	6行 支配者のみ→支配者にのみ
P14	上段	2行 釜の現状...→釜の現状は...
	下段	7行 酒人の入る→酒をのを...
	下段	8行 現時点ではあるが→現時点で
P16	下段	9行 性よりも→性よりも
	上段	7行 有利
	上段	17行 我々はこうして不利な...
	下段	15行 我々はこうして不利な...
P17	下段	11行 仲間同士→仲間同士
P19	下段	10行 お善立て→お善立て
P21	下段	7行 通し
P30	上段	12行 存在基礎
P31	下段	4行 防衛局
P32	上段	13行 航空機
P33	下段	8行 分散地帯
P36	上段	1行 必要

発行日 一九七二年 二月 一日

発行者 大阪地区労働者解放戦線
釜ヶ崎解放委員会

連絡先 大阪市北区浮田町11番地
関西レボリューション社

電話 (06) 377-8479

(顔 価 50 円)